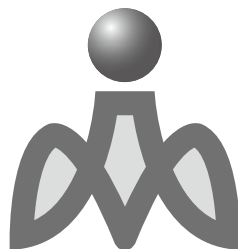


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成27年1月～3月実績〕
〔平成27年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第4四半期 平成27年1月～3月期 「調査時点：平成27年3月1日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

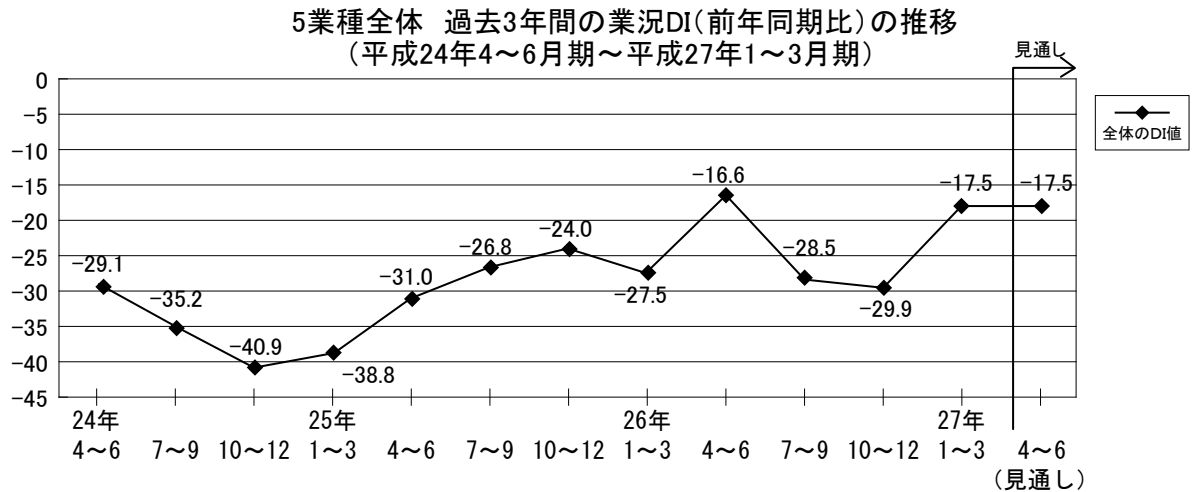
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲17.5と前期比で12.4ポイント改善している。

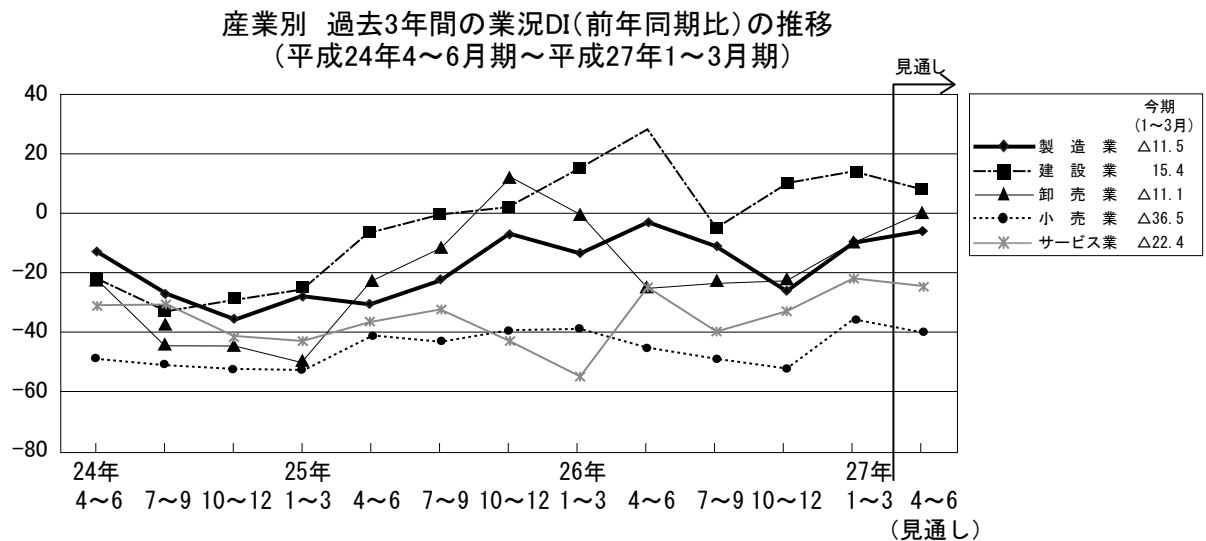
また、来期については、▲17.5と横ばいの見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

製造業が▲11.5と前期比で14.2ポイント、建設業が15.4と前期比で5.1ポイント、卸売業は▲11.1と前期比で11.1ポイント、小売業が▲36.5と前期比で15.6ポイント、サービス業が▲22.4と前期比で11.7ポイント改善している。

来期は、製造業、卸売業が更に改善するものの、建設業、小売業、サービス業が落ち込む見通しとなっている。



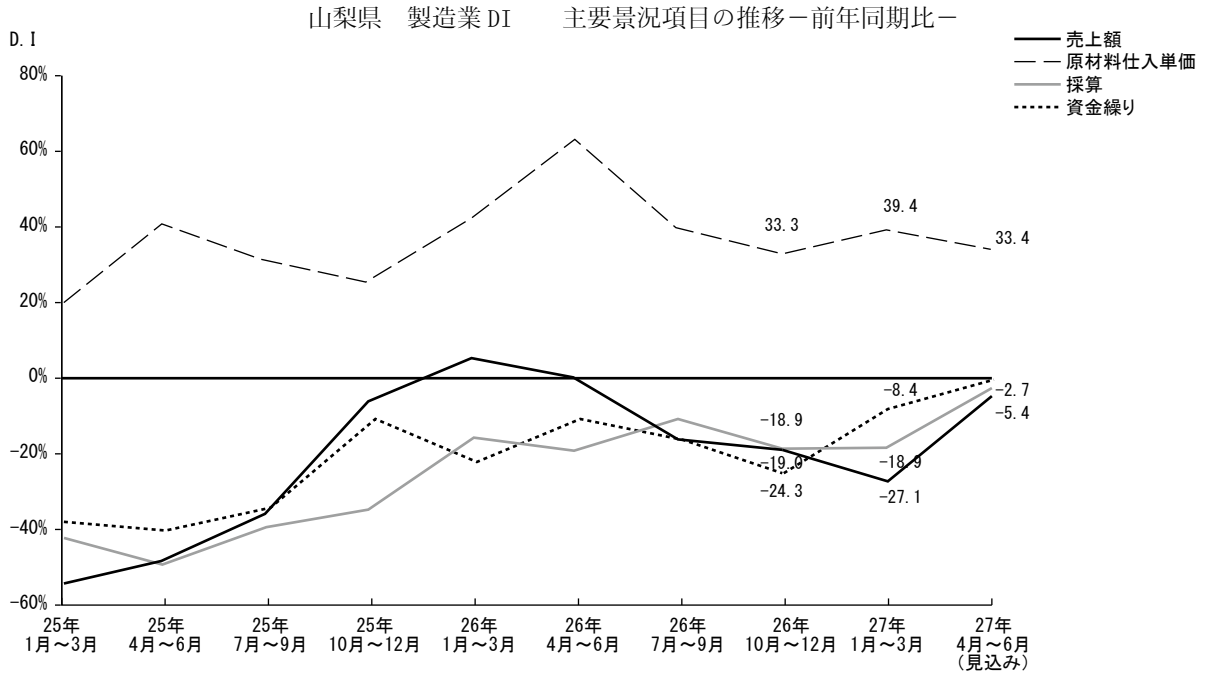
【注記】上記、産業全体の業況概観については、県内経済団体が調査した286企業の回答に基づく県内全体の業況D Iである。なお、次ページ以降は、商工会が調査した165企業（全て小規模企業）の回答に基づく商工会エリア（甲府市・富士吉田市地域を除く）の業種別景況D I等の詳細である。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額DIについては、今期は▲27.1と前期比で8.1ポイント悪化している。一方、来期の見通しは、大幅に改善して▲2.7となっている。原料仕入単価DIは、今期は39.4と前期比で6.1ポイント上昇(悪化)している。一方、来期は33.4と改善する見通しとなっている。採算DIは、今期は▲18.9と前期比で横ばいとなっている。来期は▲5.4と改善する見通しとなっている。資金繰りDIは、今期は▲8.4と前期比で15.9ポイント改善している。更に、来期についても改善する見通しとなっている。

今期、資金繰りDIが大きく改善していることに加え、来期は、売上額DI、原料仕入単価DI、採算DIにおいても改善見通しとなっている。

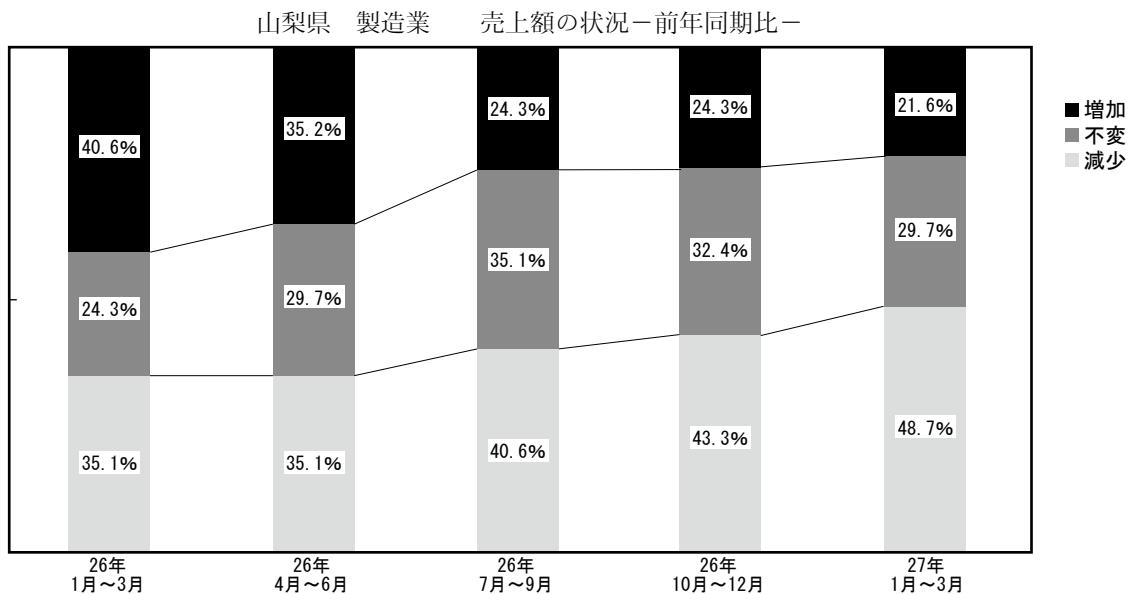


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額DIの内容 (回答企業数 37社))

「増加」と答えた企業の割合は、21.6% (8社) と減少 (前期比 ▲1社) している。

「不変」も29.7% (11社) と減少 (前期比 ▲1社) し、「減少」は48.7% (18社) と増加 (同 +2社) している。



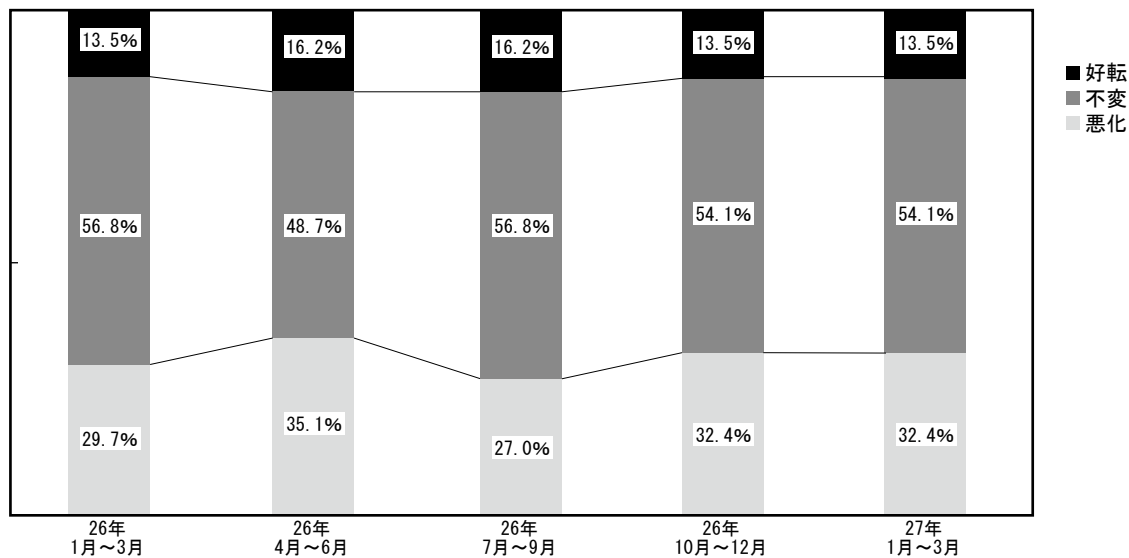
② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 37 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.5%（5 社）と横ばいとなっている。

また、「不変」も 54.1%（20 社）、「悪化」についても、32.4%（12 社）と横ばいとなっている。

山梨県 製造業 採算の状況—前年同期比—

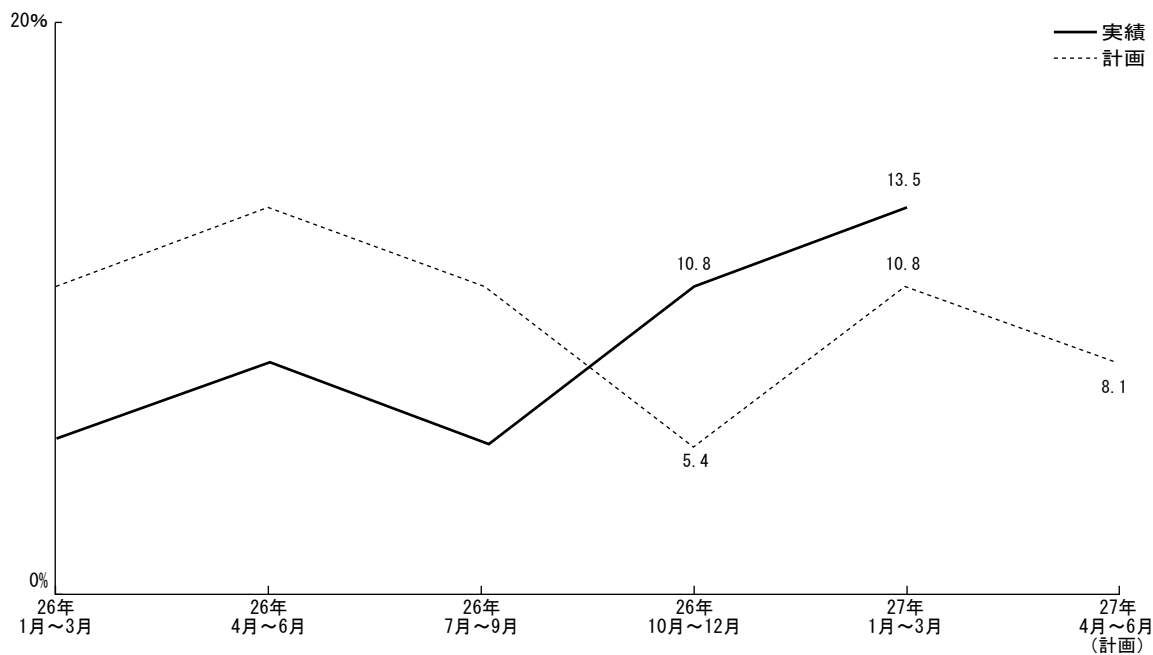


③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 37 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 13.5%（5 社）であった（前期比 + 2.7%）。その設備投資の内容は、「生産設備」4 件、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「福利厚生施設」がそれぞれ 1 件ずつであった。

来期の計画については、8.1%（3 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が 2 件、「工場建物」、「付帯施設」がそれぞれ 1 件になる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 35 社）

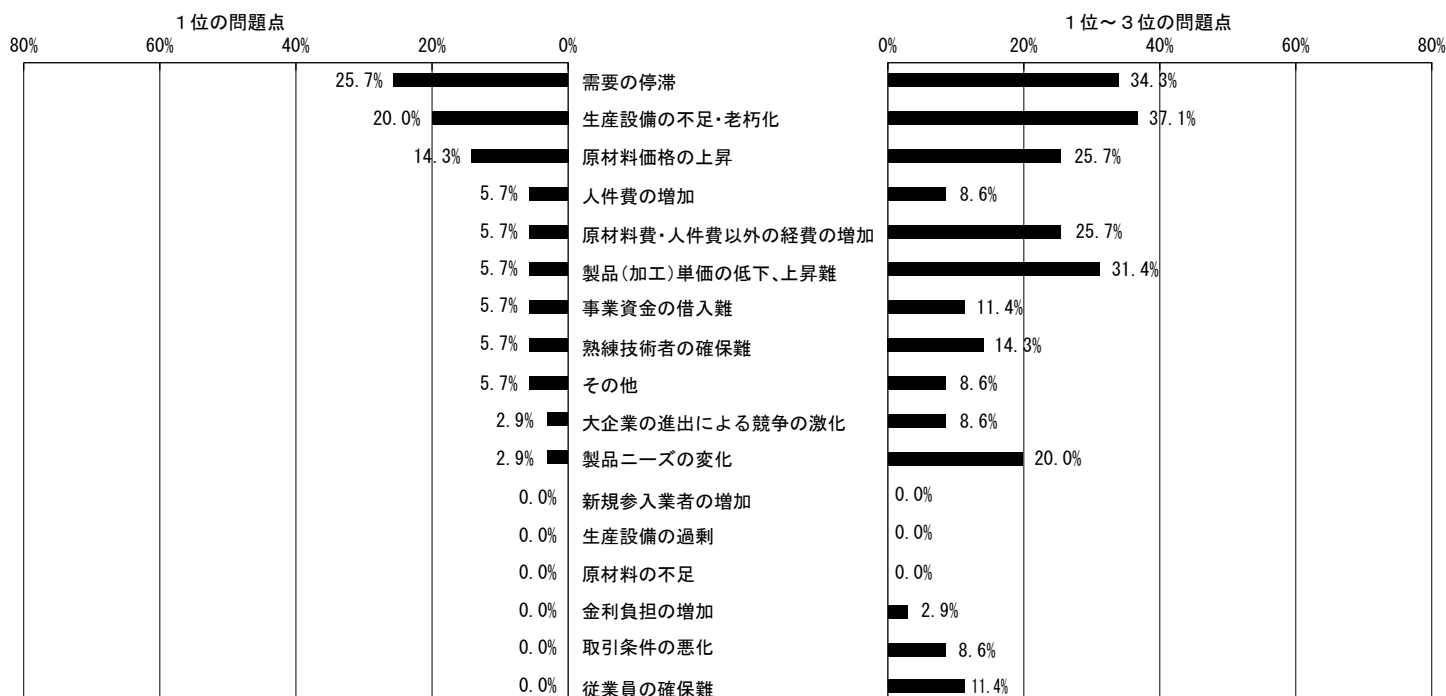
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 25.7%（9 社）であり、2 番目は、「生産設備の不足・老朽化」の 20.0%（7 社）になる。さらに、「原材料価格の上昇」の 14.3%（5 社）などが続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「生産設備の不足・老朽化」の 37.1%（13 社）、2 番目は、「需要の停滞」の 34.3%（12 社）、3 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」31.4%（11 社）になる。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	14
飲料・飼料・たばこ製造業	1	3
衣服・その他繊維製品製造業	1	3
印刷・同関連業	2	5
化学工業	2	5
プラスチック製品製造業	4	11
金属製品製造業	2	5
一般機械器具製造業	12	32
電気機械器具製造業	2	5
輸送用機械器具製造業	1	3
その他製造業	5	14
合 計	37	100

従業員規模別

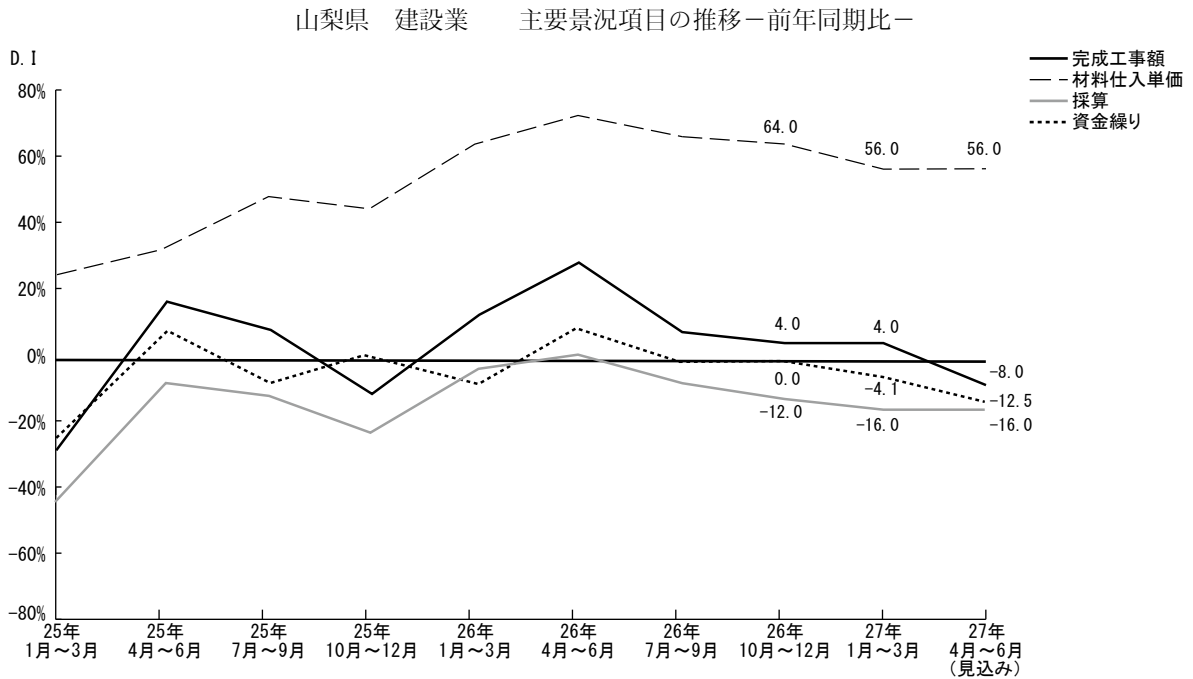
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	23	62.2	19	51.4
3 人～5 人以下	6	16.2	5	13.5
6 人～10 人以下	4	10.8	8	21.6
11 人～20 人以下	4	10.8	5	13.5
合 計	37	100	37	100

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iについては、今期は4.0と前期比で横ばいとなっている。来期は▲8.0と悪化する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は56.0と前期比で8.0ポイント低下（改善）している。また、来期は横ばいの見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲16.0と前期比で4.0ポイント悪化している。来期の見通しは、横ばいとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲4.1と前期比で4.1ポイント悪化している。来期は▲12.5と更に悪化する見通しとなっている。

今期の採算D Iや資金繰りD Iの悪化に加え、来期は、完成工事額D Iにおいても悪化見通しとなっている。

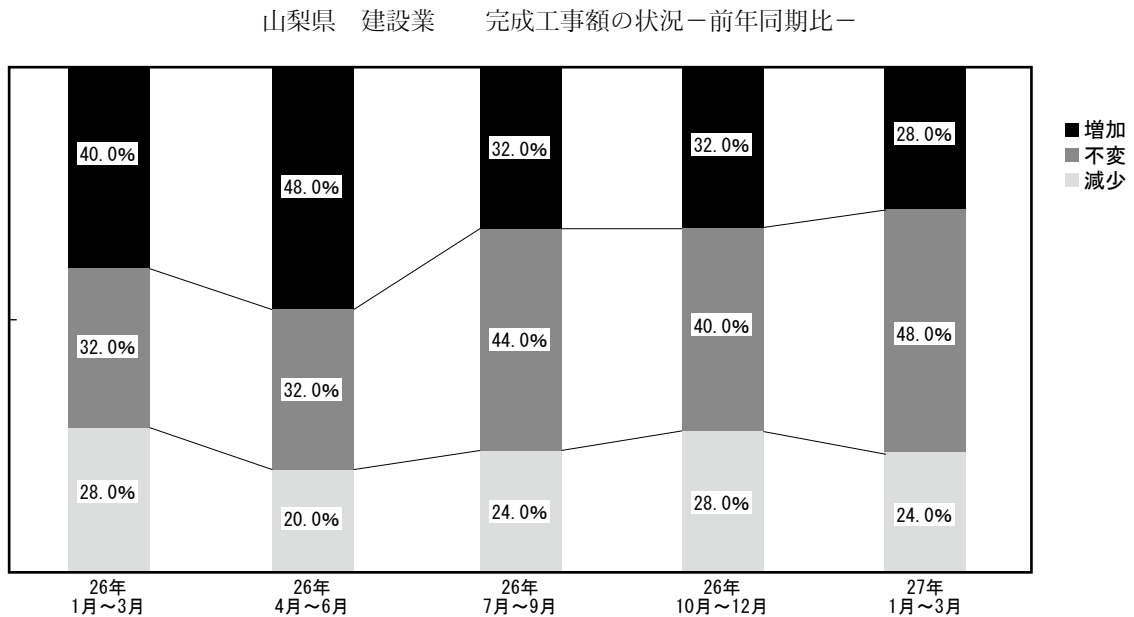


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（回答企業数 25 社）

「増加」と答えた企業の割合は、28.0%（7社）と減少（前期比 ▲1社）している。

「不変」は48.0%（12社）と増加（前期比 +2社）し、「減少」は24.0%（6社）と減少（同 ▲1社）している。



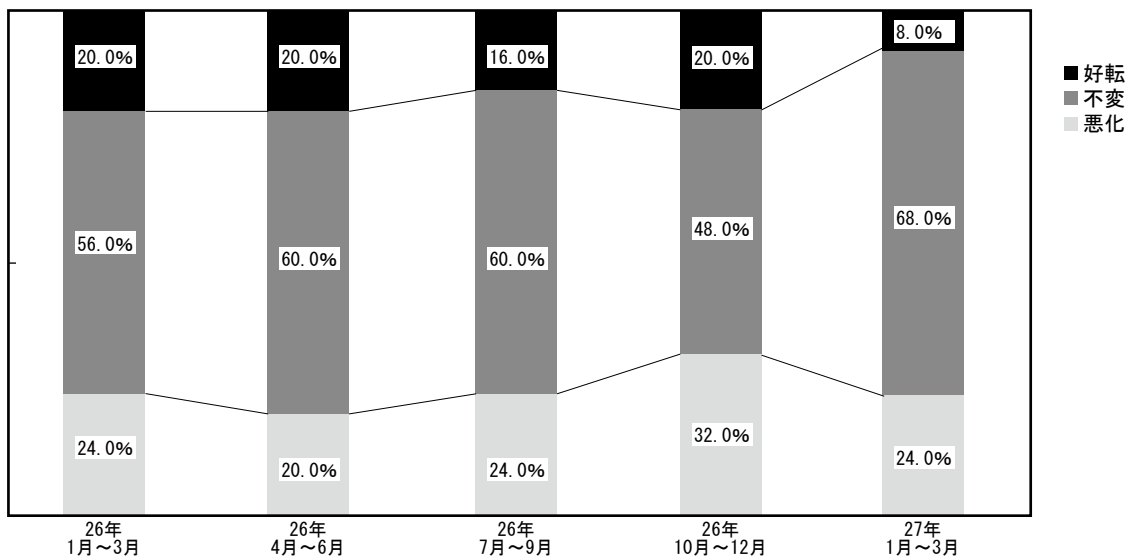
② 採算（採算DIの内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と減少（前期比 ▲3社）している。

「不変」は68.0%（17社）と増加（前期比 +5社）している一方、「悪化」は24.0%（6社）と減少（同 ▲2社）している。

山梨県 建設業 採算の状況—前年同期比—

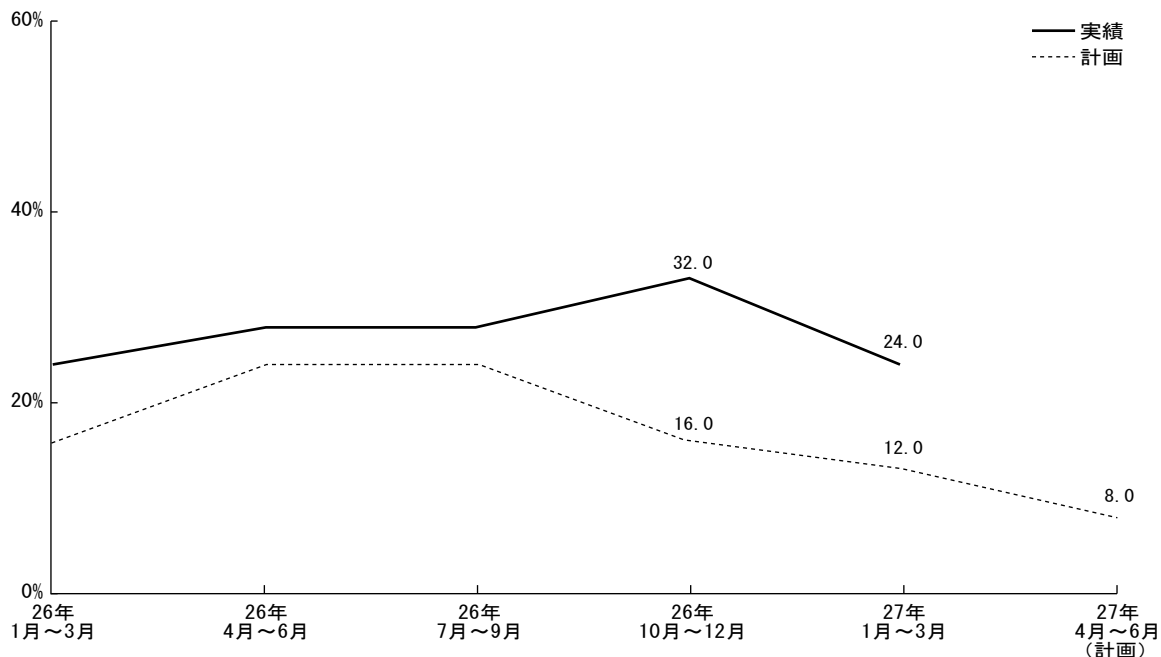


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は24.0%（6社）であった（前期比▲8.0%）。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が4件、「OA機器」が2件、「その他」が1件であった。

来期の計画については、8.0%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「建物」、「車両・運搬具」、「付帯設備」、「OA機器」がそれぞれ1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 24 社）

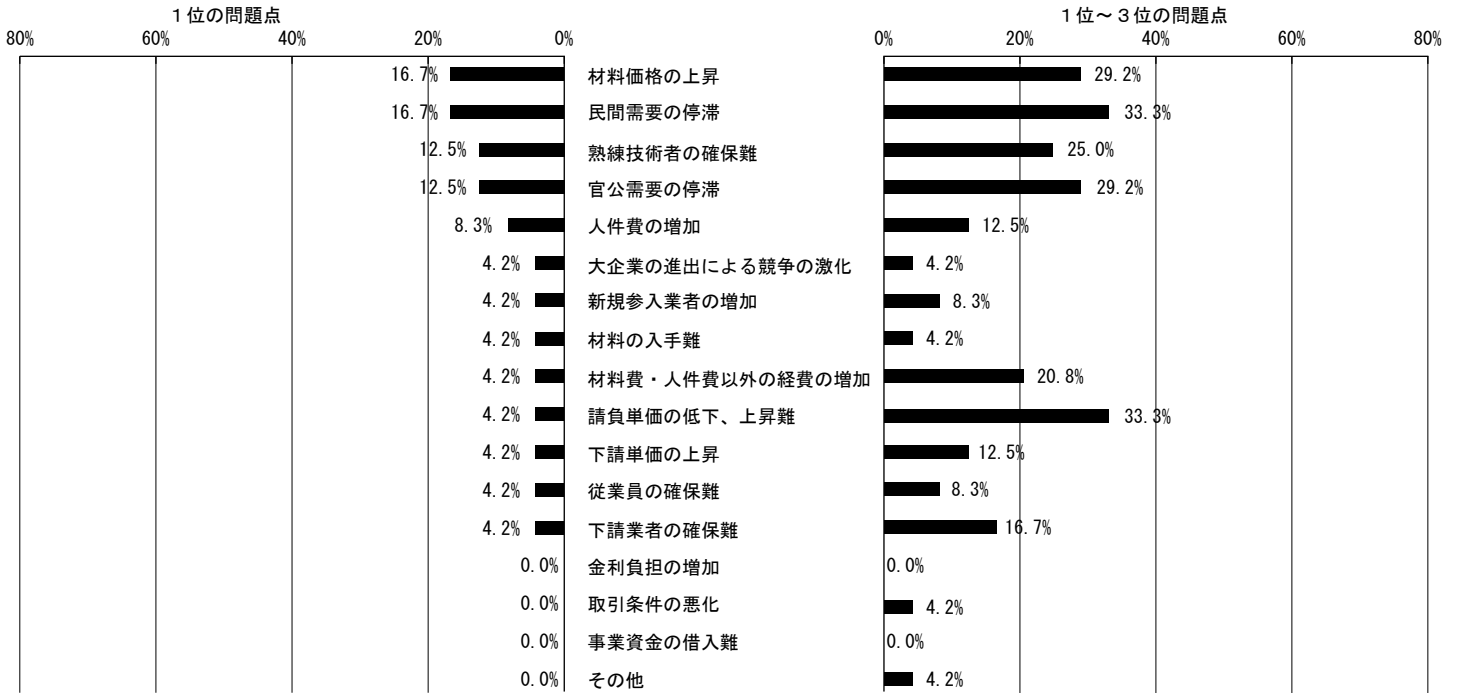
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「材料価格の上昇」、「民間需要の停滞」ともに 16.7%（4 社）であり、つぎに多かったのは「熟練技術者の確保難」、「官公需要の停滞」の 12.5%（3 社）になる。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「民間需要の停滞」、「請負単価の低下、上昇難」ともに 33.3%（8 社）であり、つぎに多かったのは、「材料価格の上昇」、「官公需要の停滞」の 29.2%（7 社）になる。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72
職別工事業	4	16
設備工事業	3	12
合計	25	100

従業員規模別

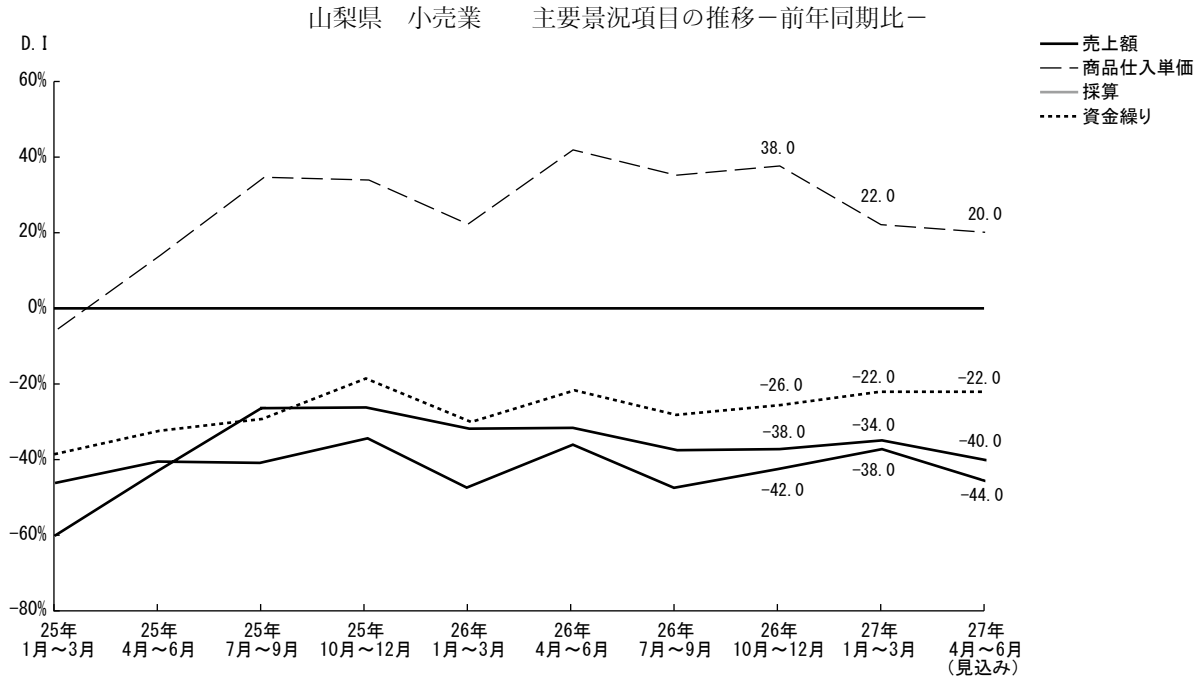
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	9	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	7	28.0	8	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	4	16.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100	25	100

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲34.0と前期比で4.0ポイント改善している。一方、来期の見通しは、▲40.0と悪化する見通しとなっている。商品仕入単価D Iは、今期は22.0と前期比で、16.0ポイント低下(改善)している。来期は、20.0と更に改善する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲38.0と前期比で4.0ポイント改善している。一方、来期は▲44.0と悪化する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲22.0と前期比で、4.0ポイント改善している。来期の見通しは、横ばいとなっている。

今期、全てのD Iで改善がみられるものの、来期は、売上額D I、採算D Iがやや悪化する見通しとなっている。

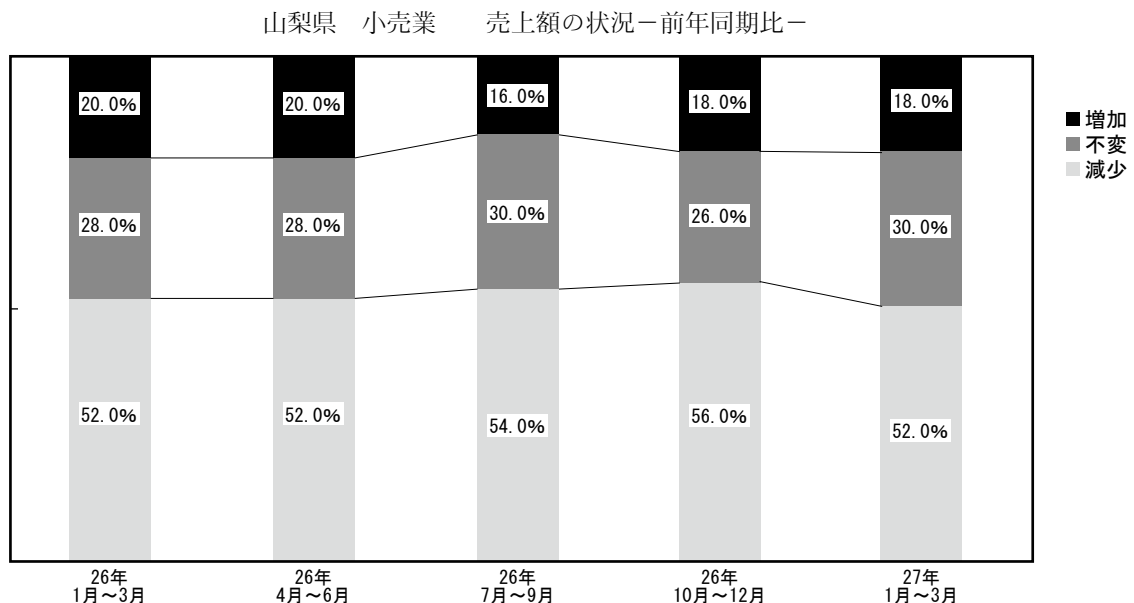


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 50 社)

「増加」と答えた企業の割合は、18.0% (9 社) と横ばいとなっている。

「不変」は 30.0% (15 社) と増加 (前期比 + 2 社) し、「減少」は 52.0% (26 社) と減少 (同 ▲ 2 社) している。

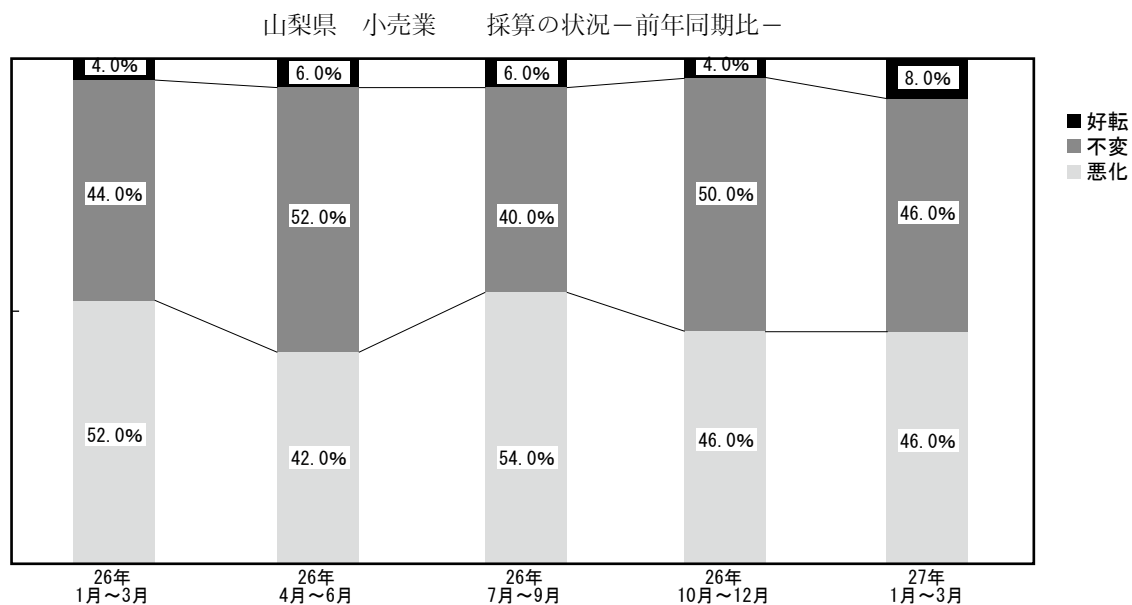


② 採算（採算DIの内容（回答企業数50社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（4社）と増加（前期比 +2社）している。

「不変」は46.0%（23社）と減少（前期比 ▲2社）している。「悪化」は46.0%（23社）と横ばいとなっている。

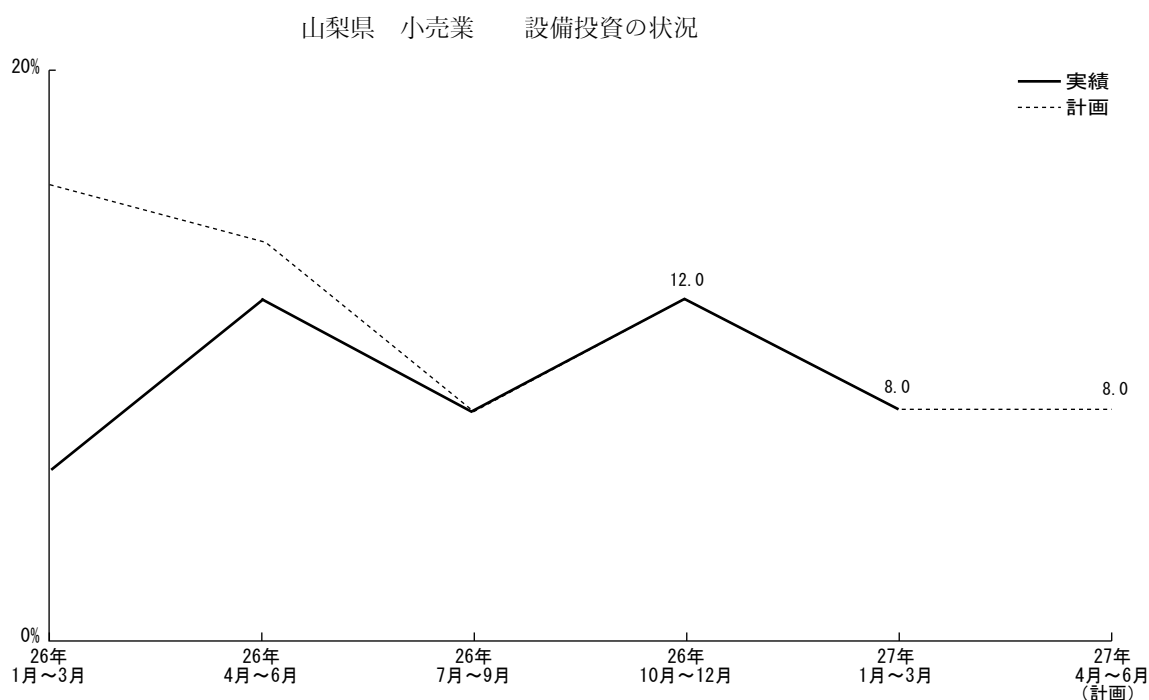


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった（前期比 ▲4.0%）。

その設備投資の内容は、「車両・運搬具」、「OA機器」が2件、「販売設備」が1件であった。

来期の計画については、8.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「販売設備」、「車両・運搬具」、「OA機器」が2件、「その他」が1件になる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 47 社）

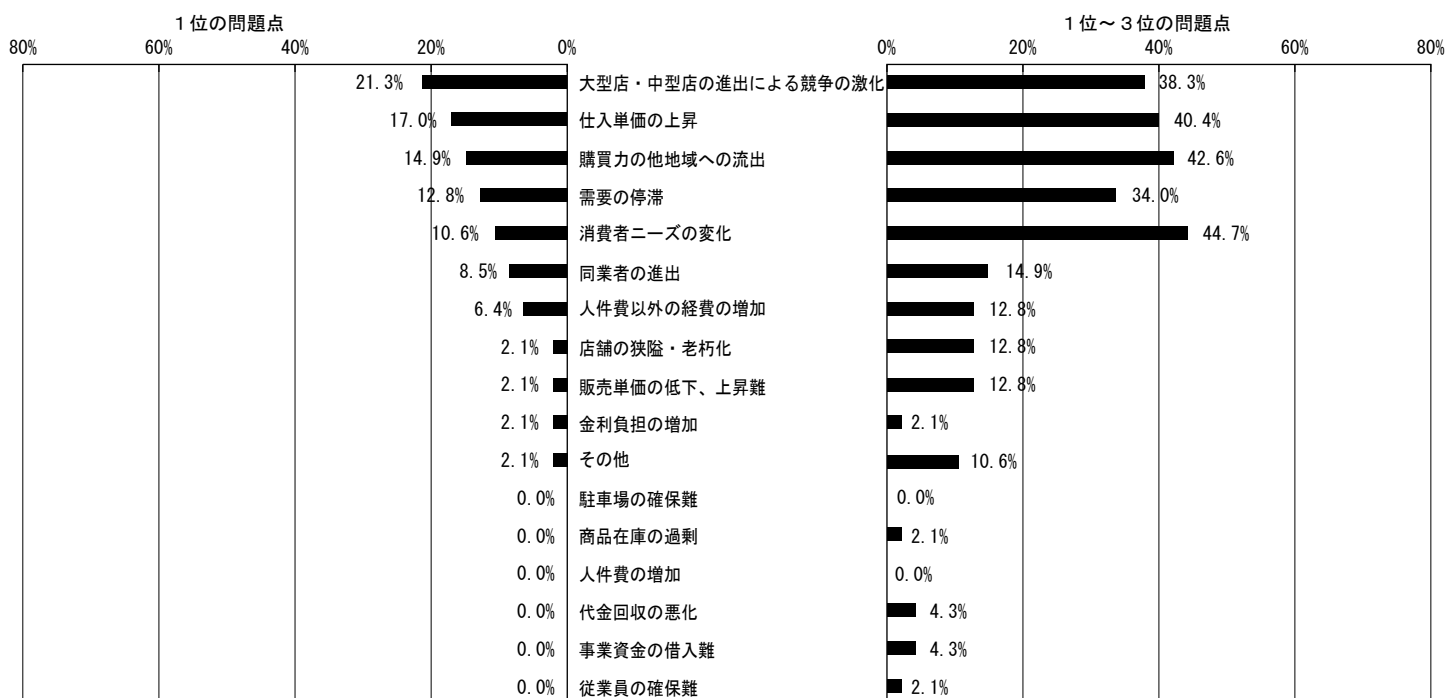
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」の 21.3%（10 社）であり、2 番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の 17.0%（8 社）、さらに、「購買力の他地域への流出」の 14.9%（7 社）と続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の 44.7%（21 社）であり、2 番目に多かったのは「購買力の他地域への流出」の 42.6%（20 社）になる。さらに、「仕入単価の上昇」の 40.4%（19 社）と続く。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22
飲食物品小売業	17	36
自動車・自転車小売業	3	6
家具・建具・じゅう器小売業	5	10
その他小売業	14	26
合 計	50	100

従業員規模別

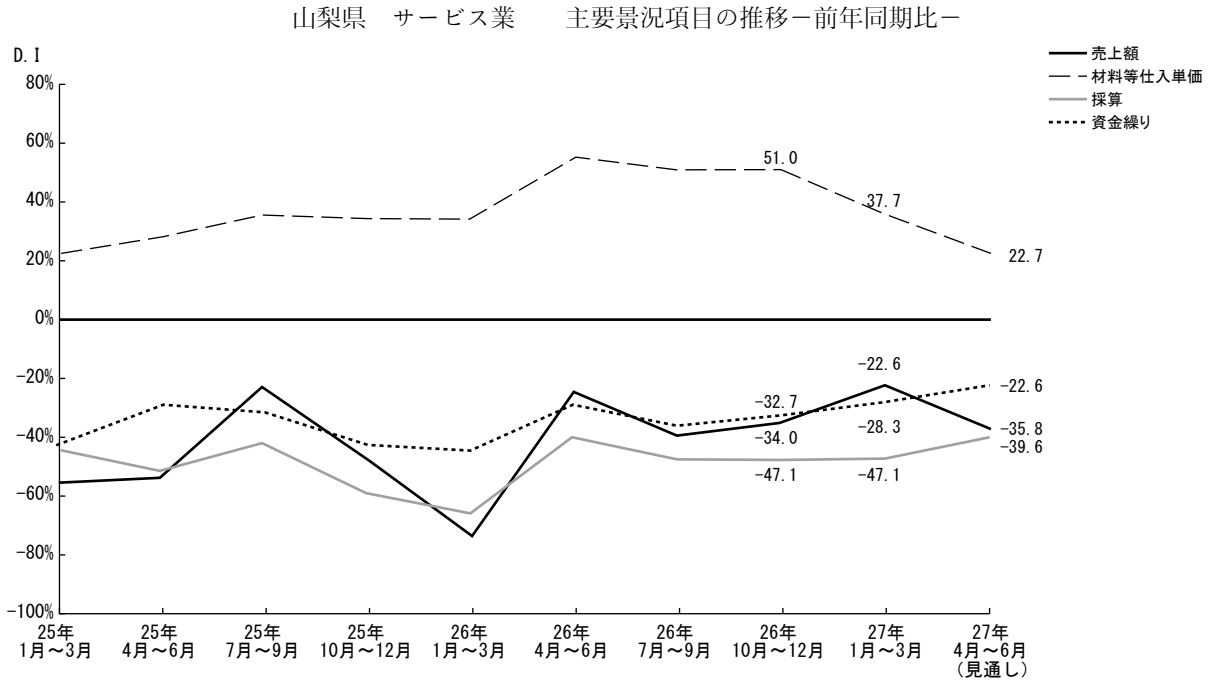
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	45	90.0	40	80.0
3 人～5 人以下	5	10.0	10	20.0
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合 計	50	100	50	100

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲22.6と前期比で11.4ポイント改善している。一方、来期は▲35.8と悪化する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は37.7と前期比で、13.3ポイント低下（改善）している。来期は、22.7と更に改善する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲47.1と前期比で横ばい、来期の見通しは、改善して▲39.6となっている。資金繰りD Iは、今期は▲28.3と前期比で4.4ポイント改善している。来期は▲22.6と更に改善する見通しとなっている。

今期は全てのD Iで改善しているものの、来期は、売上額D Iが悪化する見通しとなっている。

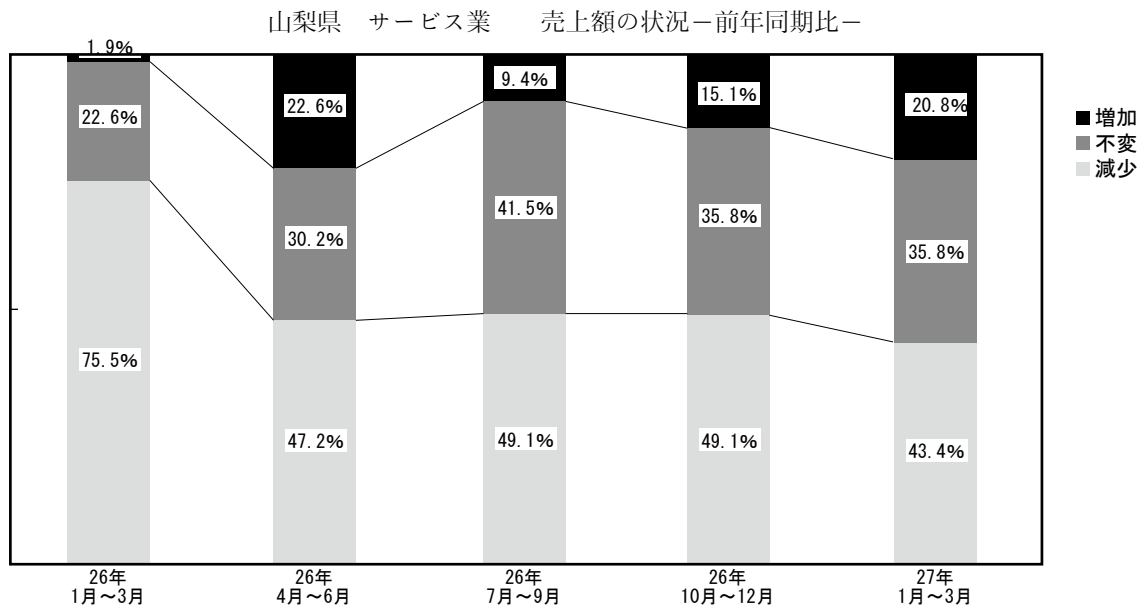


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（回答企業数 53 社）

「増加」と答えた企業の割合は、20.8%（11 社）と増加（前期比 + 3 社）している。

「不変」は 35.8%（19 社）と横ばいとなっている。「減少」は 43.4%（23 社）と減少（前期比 ▲ 3 社）している。

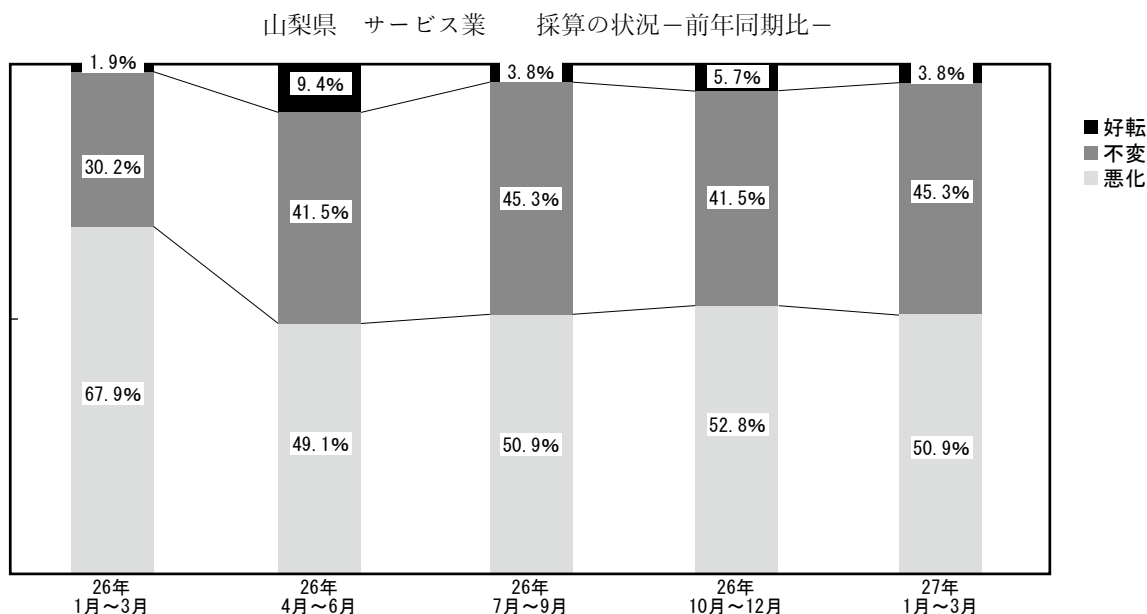


② 採算（採算DIの内容（回答企業数53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、3.8%（2社）と減少（前期比 ▲1社）している。

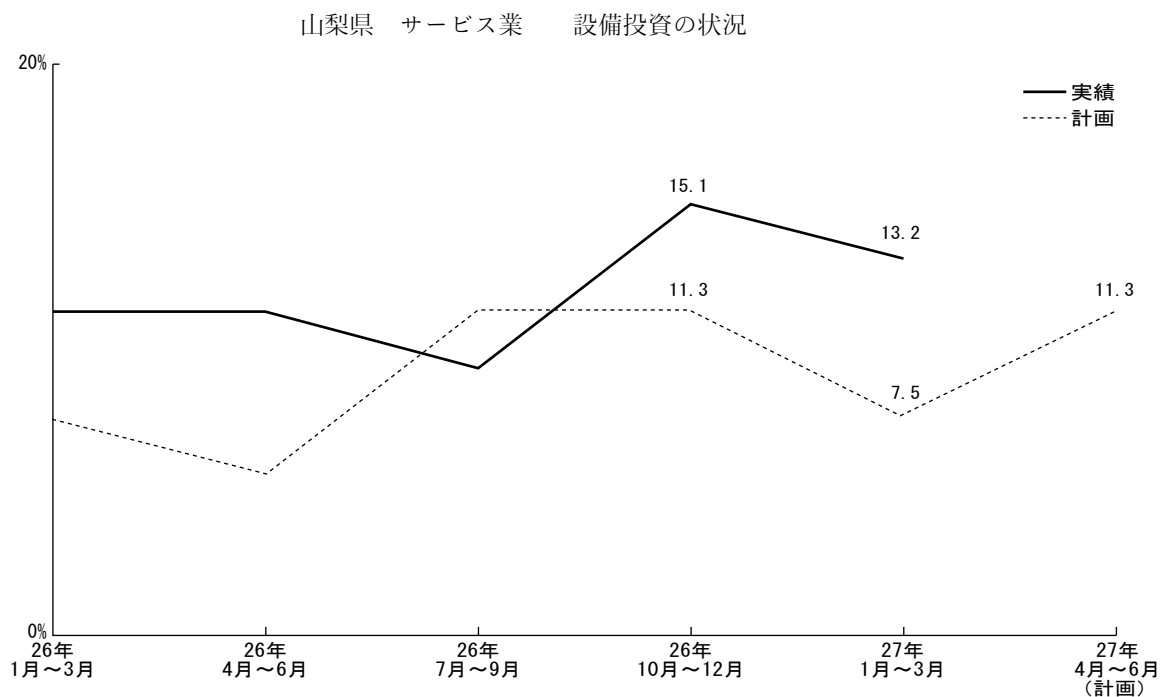
「不変」は45.3%（24社）と増加（前期比 +2社）している一方、「悪化」は50.9%（27社）と減少（同 ▲1社）している。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は13.2%（7社）であった（前期比 ▲1.9%）。その設備投資の内容は、「建物」、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」、「その他」がそれぞれ2件ずつであった。

来期の計画については、11.3%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯設備」、「その他」が2件ずつ、「建物」、「サービス」、「車両・運搬具」、「OA機器」が1件ずつになる。



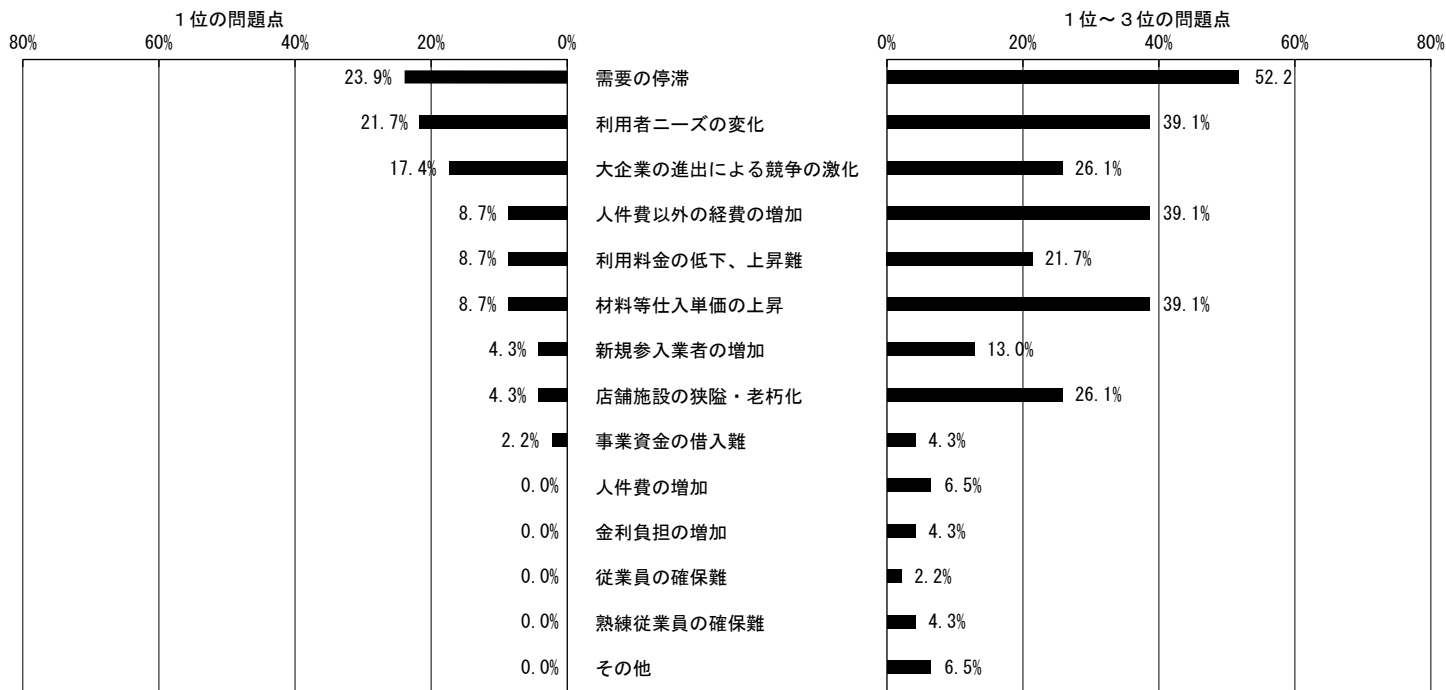
④ 経営上の問題点（回答企業数 46 社）

まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 23.9%（11 社）であり、2 番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の 21.7%（10 社）になる。そのあと、「大企業の進出による競争の激化」の 17.4%（8 社）と続く。次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 52.2%（24 社）、2 番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」、「人件費以外の経費の増加」、「材料等仕入単価の上昇」とともに 39.1%（18 社）になる。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36
宿泊業	8	15
運送業	2	4
自動車整備業	3	6
洗濯・理美容業	16	30
その他のサービス業	5	9
合計	53	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	44	83.0	40	75.5
3 人～5 人以下	9	17.0	13	24.5
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100	53	100